

JGFA 審査員養成講習テキスト（新規資格取得用）

【テキストの項目】

- I. IGFA ルール解説 (IGFA ルールブックによる)
 - II. 記録申請の方法と注意点
 - III. トーナメントジャッジ (大会審査) の方法
-

I. **IGFA ルール解説** (IGFA ルールブック(日本語訳)を参考に下記の内容を把握し、他人に聞かれた場合でも説明できるようにしておくこと。あるいは、そこまでできないまでも、質問の回答をルールブック上で明示できること。)

- A. IGFA ルールの基本理念 (IGFA ルールで言う「釣り」とは、手段や道具を選ばないような「漁」ではなく、スポーツマンシップを前提とし、ルールに基づいた、魚にも釣り人同士にもフェアなものである。このような理念を持つ IGFA ルールに従って釣られたもののみが釣魚(ゲームフィッシュ)の正式記録として、世界(日本)記録として認められる。)
- B. 釣具の規定
- C. 釣りの規定
- D. 失格となる行為
- E. 記録部門のそれぞれの説明 (日本記録&世界記録、ラインクラス部門、オールタックル部門、ジュニア日本記録 ジュニア世界記録、年間フィッシングコンテスト、スペシャルクラブ、などこれらの内容を把握すること。)
- F. その他の注意事項

II. 記録申請の方法と注意点

(資料：記録申請用紙、IGFA ルールブック(日本語訳))

A. 一般の記録申請方法

- | | 最低枚数 |
|--|------|
| (1) 写真 | 1枚 |
| 1. 釣り人、ロッド／リール、魚と一緒に撮っているもの | 1枚 |
| 2. ハカリと魚 (ハカリの前面にプラスチックカバーのあるものははずして撮影) | 1枚 |
| 3. ハカリの目盛りのクローズアップ写真(目盛りがはっきり読めるように。) | 1枚 |
| 4. 魚種が確認できるもの | 1枚以上 |
| 5. ルアーの写真 (フックのつけ方、フックの本数がわかるもの) | 1枚 |
| (2) 記録申請用紙の記入 (とくに注意を要する点は、下記の諸点。) | |
| 1. 署名欄はすべて記入のこと。 | |
| 2. 住所氏名など読み方がわからないと思える場合は必ずフリガナをつける。 | |
| 3. ハカリの保証日付を確認して記入。ハカリの精度確認最終日付が釣ったときより1年以上経過している たら釣った後でもよいから検査を受け、その検査日を申請書に記入。あるいは、小さいハカリなら申請時に申請書類と一緒にハカリを JGFA 事務局へ送付すると、検査してくれ、検査が終わると着払いで返送してもらえる。 | |
| 4. 記入モレがないか、再チェック。タックルやボートなど使用しない場合、その欄を空欄にせず「なし」あるいは「使用せず」と記入すること。 | |
| (3) ラインサンプル | |

ライン(道糸) およびダブルライン、リーダー (ルアーはアイの結節のところからカットしてよい) を連結された状態で段ボールに丁寧に巻き、耐水性のマジックインクで氏名、魚種名、魚体重、ラインクラスを明記する。(トローリングのリーダーのようにダブルライン側のスナップでつなげるようなものは、別々でもかまわない。)

(4) JGFA 事務局へ送付

上記の (1) ~ (3) をそろえて送る。

B. トーナメント中の記録申請方法

トーナメント中に記録が出たときは、本当に注意が必要である。大会審査というのはたいへんあわただしいものであり、そのため、記録申請に必要な写真撮影、魚体計測をつい忘れてしまい、せっかくの記録がフイになってしまうことが過去にたびたびあった。そんなことにならないよう、このマニュアルを大会本部に常備し、そのつど確認できるような態勢と心の準備をお願いしたい。

(1) 最新の日本記録リストを大会本部に準備しておく。

(JGFA のホームページからプリントアウトするのが一番新しい。)

(2) 写真撮影： カメラを準備、

①本人と魚とタックルが一緒に移っている写真

②ハカリに載せた計量シーン

③ハカリの目盛りが鮮明に見える目盛りのクローズアップ写真

④ルアーのフック配列の分かる写真

以上を大会本部側で撮影するか、取材のカメラマンに指示して撮影してもらうなど)

当日あるいは後日、これらの写真がプリントアウトできたら申請者へ渡してあげる。

(3) 記録申請用紙を大会本部に準備しておく。

(4) 記録申請用紙にウェイマスター(計量し、目盛りを読んだ人)、検量証明人(計量に立ち会った人)、最終現認者署名の記入を必ず済ませる。

(5) 釣った本人に申請書と一緒に (2) で掲げた①～④の写真、ラインサンプル(ライン、ダブルライン、リーダー、仕掛けなどを厚ダンボール紙に巻き、釣り人氏名、魚種名、魚体重、ラインクラスを耐水性マジックインクで書いたもの) を必ず提出するよう指示。

(6) 検量した魚の重量、全長、又長、胴回りデータを記録申請者に伝達。(もしくは記録申請書に記入。)

(7) (4) や(6)といった事項を大会本部側で記入したうえ、その記録申請用紙を、釣った本人(記録申請者)に渡す。

(8) 申請者から、本人自ら JGFA 事務局へ記録申請するよう指示。(本人が記録申請の仕方がわからないというので大会関係者側で記録申請してあけたが、申請期限に間に合わなかったり、写真の目盛りが読めないなど申請に不備があったため失格になり、釣った本人と主催者側でひどくもめたケースあり。そういうトラブルに巻き込まれることのないように釣った本人自身に申請させることが大事である。)

C. 記録申請の提出期限

(1) 国内の場合 ・釣った日より 30 日以内 (やむをえない事情があると審査委員会が認めた場合、さらに 30 日の延長ができる。)

・オールタックル日本記録も同一。

(2) 世界記録申請の場合 ・釣った日より 90 日以内 (アメリカ国内で釣った場合は、60 日以内)

・オールタックル：過去のものでも、条件が揃っていれば受け付ける。

III. トーナメントジャッジ(大会審査) の方法

これをしっかり身につけることが JGFA 審査員資格講習会の最大の目的である。十分理解し、審査に支障やトラブルのないように切にお願いする。

A. トーナメント前の準備段階

①「大会ルールの設定」...IGFA ルールやその他の規制に適合しているか、審査委員長は主催者に確認する。

- ②「審査員の役割分担スタッフ人選」…当日の審査活動に支障のないよう、必要人数を揃えるよう主催者に指示。
- ③「大会ルールの説明」…「大会運営、スケジュール、大会ルール、安全についての説明会」の開催を主催者に指示。
- ④「審査用備品」…必要なものが揃っているかを主催者に確認。

B. トーナメント当日

①審査準備のための会場設営

- 検量スペースの確保
- ライン、タックルチェックスペース(リーダー、ダブルラインなど規定の長さを測るスペース)
- 審査表受付、記録チェックなどの「審査専用」スペース確保 (テーブル、イスも準備)。

②審査用備品 (下記はカジキ釣り大会の例。ライトタックル系はこの限りではありませんが参考してください。)

部 門	品 目	規 格	数量
検 量	1. ハカリ (対象魚の最大重量を考慮)	+検量補助板 (魚をのせる板/風袋)	各 1
	2. メジャー (ライン、ロープ計測用)	15m (巻尺)	1~
	3. メジャー (魚体測定用)	5m (〃)	1~
	4. 規定の長さの目盛り入りロープ (ダブルライン、リーダーの長さ測定用)		1
	5. クレーン (カジキなど大型魚用)		1
	6. 魚吊り下げ用ロープ		2~
	7. 軍手 (検量係用)		2~
	8. ボールペン (計測重量の記入など)		10~
	9. 付箋紙 (魚体の計測値を書き、審査票に貼りつける。すぐはがれるタイプ)		20~
	10. JGFA 釣魚審査票		大会受付時に各チームに配布
審査表記入	11. タグ&リリース・スコアーシート		〃
	12. 最新日本記録リスト		1
	13. 写真撮影用データ記入用紙 (上に JGFA と大きく書いてある用紙)		10~
	14. ポイント集計表 (団体、個人、タグ、女性、大物など各賞ごとに準備)		
	15. ボールペン、マジックインク (太、細、各色)		各数本
そ の 他	16. JGFA 審査員証		1 (各自)
	17. IGFA ルールブック (日本語訳)		1 (各自)
	18. 清掃用具 (バケツ、雑布、ホウキなど)		各種
	(19. ライン強度・直径換算表)		1)
	(20. マイクロメーター (ライン強度の確認が必要な場合、ライン直径を計る)		1)

③審査役割分担

内 容	人 数
1. 審査順指示(無線でボート呼び込み)	1
2. (カジキなど大型魚の場合) 吊り下げ 誘導	1(クレーン作業の人は別)
3. タックルチェック	2
4. 検量・魚種確認	2
5. 審査票&タグ&リリース・スコアーシート受付・チェック、ポイント記入	1

6. 写真撮影用データ用紙記入	1
7. 写真撮影用データ用紙貼り付け	1
8. お立ち台記念撮影誘導	1
9. 必要な場合には、審査状況現場広報（マイク係）	1
	計 11名

他に、ボート接岸補助係、出帰港チェック係、無線担当、取材受付け係、カメラマンなどのスタッフも必要です。

④審査方法（手順）

- [1] 検量**
- (1) 釣った魚、審査票、タグスコアシート、タックルの提出を促す。
 - (2) タックルチェック（ロッド、ダブルライン、リーダー、ルアー、ギャフ＆ロープ、ライン強度とラインの太さの関係表に基づき、マイクロメーターでラインをチェックするケースもあります。）
 - (3) タックルOKなら、検量に入る。魚種を確認。
 - (4) 検量したら（全長、叉長、胴回り、体重）、付箋紙（ポストイットカード）にボート名、魚種、全長、叉長、胴回りの長さ、重量を記入し、審査票受付係へ回す。
 - (5) 審査表をチェックし、提出者の記入モレを確認。
もし、記入モレがあれば直ちに記入要請。とくに船長サインを確認。
確認が終わるまで、提出者を待たせておくことが肝要。
 - (6) 検量データ、ポイントを記入し、記入者が審査員サイン。審査委員長が最終確認し、サイン。
 - (7) ポイント集計表にポイントを転記（コンピュータの場合は入力）

[2] タグ＆リリース

- (1) 必要に応じてタックルチェック（スズキなどのタグ＆リリースの場合、タックルチェックを省く場合もあり。カジキの場合ではやったほうがよい。）
 - (2) タックルOKなら、タグ＆リリース・スコアーシートを受付ける。
 - (3) カジキ大会の場合、魚種確認のためにデジカメ画像のチェック（★下記参照）
 - (4) 記入モレの確認。日付、魚種、タグ記号、番号、叉長、釣り場（放流場所）、使用ラインクラス、放流者氏名、住所、T E L. などすべて記入されているか確認。記入モレの確認が済むまで提出者を待機させ、モレがあれば直ちに記入要請。提出者を帰した後で不備が見つかっても審査に支障をきたしてしまうので注意が必要である。
 - (5) 記入済み確認後、ポイント計算。
 - (6) チームごとに仕分け。
 - (7) タグ＆リリース集計表、チームポイント集計表にポイント記入。
- ★タグ＆リリースの場合、「入賞対象となった場合は証拠となるデジカメ写真の提示を求める」ことを大会ルールに盛り込むケースもある。

[3] スコアーボードへの記入

- (1) 2日以上の大会でスコアボードが用意される場合、チームごとの検量、タグ＆リリース各ポイントを合計し、翌日の早朝、スタートフィッシング前までに記入。できれば当日の審査終了後に記入を済ませるのが望ましい。

[4] ルール違反のチェック

- (1) 審査を行なう前に、違反情報を入手した場合、必ず本人にそのような違反行為があつたかどうか確認しておくことが望ましい。本人確認を怠ってルール違反と判断することはトラブルの元となるので避けたい。

[5] 抗議の受付け

- (1) 抗議は、大会実行委員長あてに、チームキャプテン名で文書でのみ受付けると開催要項などに明記する。
口頭では絶対に受け付けないこと。後で必ず言った、言わないという話になるからだ。
- (2) 抗議提出期限は、各トーナメントのスケジュールにあわせ設定するが、最終的にも表彰前までとする。

[6] 抗議に対する回答

- (1) 抗議内容については、大会実行委員長を含む実行委員会を招集し、討議し、結論を出し、すみやかに抗議者に回答する。これは口頭でかまわない。

[7] 審査委員長の職務終了

大会が終了する時点をもって、審査委員長の職務が完了するものとする。それまでは、やむをえない事情がない限り、その任から離れてはいけない。過去に審査委員長が表彰の前に帰ってしまい、後でヒンシュクを買ったケースがある。